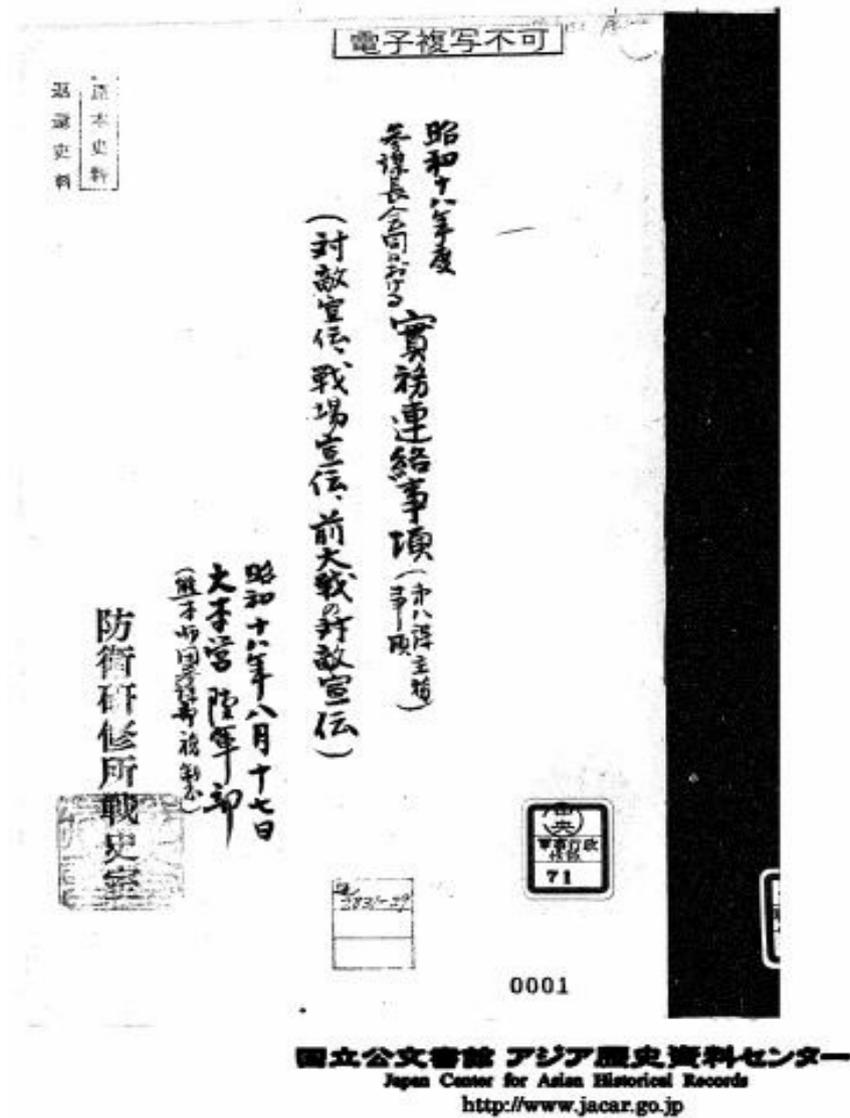


【0001】

昭和十八年度参謀長会同における
実務連絡事項（第八課主務事項）
（対敵宣伝、戦場宣伝、前大戦の対敵宣伝）

昭和十八年八月十七日
大本営陸軍部
（熊本師団参謀部複製）



Ref. C14010442700

【0002】

【0003】

極秘 (用済後確實ニ焼却スベシ)

昭和十八年度参謀長会同ニ於ケル実務連絡事項 (第八課主務事項)

昭一八. 八. 一七
大本營陸軍部
熊本師団参謀部複写

対敵宣伝ニ就テ

第一 要 旨

対敵宣伝ニ関シテハ去ル三月宣伝主任者会同席上次長、第二部長口演ニ於テ指示セラレタル処ナルモ要スルニ主敵タル米国ニ対シテハ

1. 今次戦争ハ帝国ノ自存上絶対的ナルモノナルヲ以テ帝国ハ最後ノ一人トナルモ断乎戦ヒ抜クベキ頑強熾烈ナル決意ヲ有シアルコト
2. 米ノ戦争目的ノ不明不正ナルコト
3. 敵側人的損害ノ莫大ナルコト

ノ三点ヲ主眼トシ陰陽ノ各種手段ヲ併用シツツ執拗ニ宣伝ヲ繼續シツツアリ而シテ米国ノ中心トスル連合諸国ノ離間ニ関シテモ着意¹指導セラレアリ時間ノ關係上以下戦場宣伝ト俘虜ノ利用ノ二点ニ限定シ若干説述参考ニ資セントス

—

¹ 「【着意】①心をとどめること。気をつけること。②心に思いついた考え。着想。」
『広辞苑』

【0004】

二

第二 戦場宣伝ニ就テ

一. 米濠（英印）軍ノ思想戦的特色

（一）強点

1. 政戦両略共目下連合側ニ有利ニシテ東西相呼応シテ外線作戦²ヲ実施シツツアリ
2. 空軍優勢、物質力豊富ニシテ技術亦優秀ナリ
3. 日本人ヲ蔑視シアリ
従ツテ戦意概シテ旺盛ナリ

（二）弱点

1. 今次戦争ハ自存ノ為ノ絶対的戦争ナラズ現状維持ヨリ更ニ完全ナル米英的世界確率ヲ目指スモノニシテ米国ノ如キハ贅沢ナル政略出兵ヲ行ヒアリト謂ヒ得ベシ
2. 米英（濠支）軍ノ協同作戦ヨリ生ズル摩擦特ニ対米反感及混合部隊（英印軍）ノ本質的弱点ヲ有シアリ
3. 個人主義、死ニ対スル恐怖心 俘虜トナルヲ不名誉ト思ハズ
4. 患者 特ニ精神病者ノ多発

² 「【外線作戦】軍隊が敵を包囲しまたは挟撃する位置にあつて作戦すること。←→内戦作戦」。『広辞苑』

【0005】

5. 贅沢ナル平時ノ生活ト深刻惨烈ナル戦場生活トハ著シク懸絶シアリ
6. 「与論ノ国民」ニシテ国内ノ不安ニ関シ特ニ敏感ナル感作³ヲ受ク
7. 軍隊ハ「ラヂオ」ヲ有シアリテ敵国ノ放送ヲモ聴取シアリ
(「コツクス」少佐⁴陳述)

二. 我ガ対敵戦場宣伝ノ要領

(一) 目的

1. 敵軍特ニ戦場ニ於ケル将兵ノ戦意沮喪⁵
2. 軍内ニ於ケル相剋摩擦ノ助長
3. 連合軍相互ノ離間
4. 敵ノ土人獲得工作ノ妨害

(二) 方法

1. 「ラヂオ」
 - イ. 目下東京及爪哇(「バンドン」)ヨリ南東方面敵軍ヲ対象トスル放送ヲ実施中ナリ(俘虜利用)
 - ロ. 比島「ゲリラ」部隊ニ対シテハ渡部隊⁵ニ於テ「マニラ」ヨリ放送中

三

³ 「【感作】[生] (sensitization) 広義には、生体にある処置を加えた結果、何らかの反応性が増大すること。[以下略]』『広辞苑』

⁴ 同名の米軍少佐の記述がある：池田徳真『日の丸アワー』(中公新書,1979) p.70-71.

⁵ 「「渡」は部隊の秘匿名(いわばコードネーム)ですから、これ自体が部隊の正式名称ではありません。[中略]「渡」はフィリピンの防衛に当たっていた「第14軍」を意味します」。[栃木の神主. “慰霊協会 掲示板”. 太平洋戦争戦没者慰霊協会. 2006- 4-16.

<https://tinyurl.com/ta7q3pa>, (参照 2020-1-11)]

【0006】

(註)

四

在印、濠等ノ敵軍隊ニ対シテハ各地放送局ノ対印対濠放送ヲ以テ実施中ナルモ省略ス

「戦例」

(1) 「ジャバ」上陸作戦ニ於ケル西貢^{サイゴン}放送局ヨリ行ヘル謀略宣伝

(2) 緬甸^{ビルマ}作戦時ニ於ケル在東京緬甸婦人ノ放送等

2. 拡声器
- | | | |
|---|--------|---------------------------------|
| { | 可搬式拡声器 | 1. 到達距離. 約二 ^{キロメートル} 粁 |
| | | 2. 分解搬送. 分隊長以下一二名 |

敵前至近ノ距離ニ拡声器ヲ備付ケ予メ準備携行セル録音盤「レコード」ニ依ルノ外直接放送者特ニ俘虜ヲ利用シテ放送ヲ実施ス
右ハ

「ノモンハン」、支那戦線、「バタアン」戦線其ノ他ニ於テ実施シ相当ノ効果ヲ収メタリ

但シ放送ヲ開始スルヤ敵ノ集中火ヲ浴ビルコトヲ考慮シ掩体ノ利用
資材ノ分散ヲ図ルノ外発動機ノ消煙(音)ヲモ考慮スルヲ要ス

3. 宣伝車
- | | | |
|---|---------|----------------------|
| { | 「セ」号車二型 | 1. 拡声装置 到達距離約二粁 |
| | | 2. 「オフセット」印刷能力一分間四〇枚 |
| | | 3. 通信通達距離五一六〇〇粁 |
| | | 4. 写真装置現像定着引延 |

【0007】

自動車ニ拡声器ヲ備付ケアルモノニシテ香港攻略時対岸九龍ヨリ放送シテ効果ヲ収メタリ

4. 投射機
 宣伝弾⁶
 1. 木製到達距離 一五〇—二五〇米
 将来五〇〇米ニ延ビル可能性アリ
 2. 「ロケット」弾既ニ完成到達距離三軒
 (「ビラ」ヲ充填ス) ヲ投射ス
5. 飛行機ニヨル「ビラ」ノ投下
6. 潜入員ニ依ル敵地区ヘノ伝単散布 (土人利用)
7. 土人ヲ利用スル口伝⁷特ニ酋長、宣教師等ノ利用
8. 風船ノ利用

三. 宣伝要目

(一) 土人獲得

皇軍軍紀ノ確立及宣撫用物資ノ交付ヲ第一トス

1. 敵側ノ暴政、土人徴発□□ノ事実
2. 黒人圧迫ノ事実等

(二) 対敵軍

軍ノ精強ナル事ガ第一条件トナルコトハ申ス迄モナシ

五

⁶ 「宣伝弾投射機」か.

⁷ 「【口伝】口頭で伝えること。奥義などの秘密を口伝えに教え授けること。[以下略]」.
[『広辞苑』]

【0008】

六

1. 本国内ニ於ケル各種ノ不安
2. 濠州人ノ米軍進駐ニ対スル不平
3. 米軍ノ濠州内ニ於ケル風紀紊乱
4. 給養上ノ差別待遇
5. 戦況ニ即応スル謀略宣伝
6. 俘虜ノ逆用（特ニ生命ノ安全）

第三 対外宣伝上ニ於ケル俘虜ノ利用ニ就テ

- 一. 目下俘虜ノ利用ニ関シテハ敵国民ノ戦意沮喪ヲ目標トシ概
ネ別冊ノ如ク実施中ナリ
- 二. 各地ニ收容中ノ俘虜ノ利用ニ関スル着意ニ就テ
 1. 收容所ニ隨時出入セシメ宣伝情報ヲ収集セシムベキ特定ノ
人物ヲ定メ概ネ左ノ如キ内容ノ資料ヲ収集セシム
(例ヘバ同盟通信社員、放送局員)
 - (イ) 俘虜ノ家族宛メツセージニハ必ズ家族ヨリ「ラヂオ」ヲ通
シテ返事セシムベキ内容ヲ含マシム
 - (ロ) 戦（病）死セリ戦友ノ家族、知己友人等ノ住所氏名戦友戦死ノ

【0009】

状景等ヲ詳シク詳細ニ→厭戦思想ノ醸成

- (ハ) 戦傷患者ノ状況→同右
 - (ニ) 戦場ニ於ケル辛苦特ニ各種疾病ノ発生ト医療施設ノ不備→同右
 - (ホ) 戦争目的ニ関スル疑惑→戦意喪失
 - (ヘ) 連合軍離間ノ材料（米支、英印、米濠、米英、陸海空軍間）
2. 新ニ入手セル俘虜ヨリハ作戦情報ヲ収集スルト同時ニ前項ニ準ジ宣伝情報ヲモ収集ス⁸
 3. 俘虜中宣伝ニ直接利用シ得ル者ハ利用ヲ考慮シアリ（例ヘバ新聞記者放送員、反戦分子秘密結社員、社会的地位高キ者等）

第四 其ノ他

- 一. 大本營発表ニ関スル反響並意見ノ通報願度
 - 二. 陸軍作戦ニ関スル宣伝ノ為資料ヲ勉メテ豊富ニ送付セラレ度
 - 三. 参考資料
 1. 前大戦ニ於ケル対敵宣伝ノ研究（別冊）
 2. 「アラカン」作戦ニ於ケル戦場宣伝ノ教訓（別冊）
- 之ヲ要スルニ今次戦争ニ於ケル思想戦ノ占ムル分野ハ極メテ広大且

七

⁸ 1943年1月、ノックス少佐とともに大森収容所へ移送された3名の捕虜から最近南太平洋の前線で米兵に人気のある歌を聞き出し、「日の丸アワー」放送に使用した例がある。
〔池田徳眞『駿河台分室物語』p.173〕

【0010】

重要ニシテ作戦並施策ハ緊密ニ吻合シ之ト一元トナリ
ツツ敵ノ弱点ニ対シ見エザル攻撃ヲ深刻且執拗ニ集中
スルノ要切ナルモノアリ
伊政変ニ伴フ敵側宣伝ハ伊本土爆撃ト関連シ極
メテ功名熾烈ヲ加ヘツツアリ東亜戦局ノ進展ニ伴ヒ
敵ノ行フ対日思想戦モ又逐日変化スベキハ明瞭ニシテ
軍民離間、陸海分裂、大東亜諸民族ノ離反等ヲ主
眼トシテ展開シ来ルコトハ明瞭ナリ而テ従来敵側宣
伝ガ今次戦争ハ軍部ノ意志ニ依リ開始セラレタルガ如キ
印象ヲ一般ニ与ヘントシケル点ハ特ニ留意ヲ要スル処ニシ
テ各軍ニ於カレテモ此上トモ敵側思想戦ノ動向ヲ冷静
ニ観察セラレ適時積極的防衛ノ手段ヲ講ゼラレン
コトヲ切望スルモノナリ

【0011】

俘虜ヲ利用スル対敵放送ノ件

俘虜ヲ利用スル対外放送ハ約一年前ヨリ開始シアリ其ノ概況左ノ如シ

一. 利用状況

1. 東京

(1) 選抜セル放送者ノ利用

(イ) 米軍大尉「テド・ウオーレス」(元「マニラ」放送局勤務)

「米人ヨリ米人へ」ト題シ米国民ニ対シ毎日左記時間放送シアリ

〇一、三〇	} ノ四回各々ノ概ネ一〇分間
一四、一五	
一六、三〇	
二二、三〇	

(ロ) 米比軍少尉「ノーマン・レイス」(元「マニラ」放送局勤務比人)

「ゼロ・アワ」^(ママ)ト題シ米軍前線将兵ニ対シ連日(月曜ヲ除ク)一八、四〇
ヨリ約二十分間放送ス

(ハ) 英濠軍少佐「カズン」(元「シドニ」放送局勤務 英人)

毎日「ニュース」解説ヲセシメアリ

九

(2) 9 俘虜ニ関スル特定放送時間ノ設置

俘虜ノ家族向通信、俘虜ノ消息、戦友最後ノ状況等ヲ大東亜各地俘虜ヨリ収集検閲シ毎日左記特定時間ヲ設ケ放送シツ、アリ

左 記

〇〇、一五	}	十二回各々ノ十五分間
〇一、一五		
〇二、一五		
〇三、一五		
〇七、三五		

〇八、一五	}	十二回各々ノ十五分間
一三、一五		
一四、一五		
一五、一五		
一六、一五		
一八、一五		
二二、一五		

3. 昭南「バンドン」^{ラングーンキョウ}蘭貢西貢、上海等ノ放送ニアリテモ概ネ右ニ準
 ジ実施中ナリ
 特ニ「バンドン」ハ之ヲ活発ニ利用シアリ

9 原本では2.

【0013】

二. 反響

1. 米国ハ我ガ放送ニ対抗シ最近ニ至リ日本兵ノ俘虜ヲ利用スル放送ヲ開始セリ
2. 東京放送ニ於ケル「ゼロ・アワー」(米軍前線将兵ニ対スル放送)ニ対抗シ最近米ヨリ米軍前線将兵ニ対スル激励放送ヲ開始シアリ而シテ其ノ編輯内容ハ全ク東京ト同様ナルハ興味アリ
3. 我ガ方ヨリノ俘虜放送ニ対シテハ敵ハ逐一反駁シ来リアリ
4. 「バンドン」ノ濠軍俘虜ヲ利用スル対濠放送ニ対シテハ濠州放送局ヲ通ジ彼等ノ家族ヨリ既ニ約八百数十通ノ返信ヲ得ルアリ

三. 放送内容

俘虜ヘノ「サービス」ニ陥ラザルコトニ厳ニ注意シツツ我ガ放送ヲ必ズ聴取セシメ¹⁰其ノ間我ガ企図スル宣伝事項ヲ俘虜放送時間ノ前後或ハ中間(突如之ヲ中止シテ我ガ「ニュース」ヲ聞カシムル等)織込ミテ実施シアリ内容ノ概要左ノ如シ

1. 戦場ノ陰惨ナル状景特ニ戦友戦死ノ状況
2. 和平到来ヲ希求セシムルモノ

— — —

¹⁰ 恒石重嗣『心理作戦の回想』(東宣出版, 1978) p.233-234.に次の記述がある。「次に「ポストマンコールズ」であるが、これは大東亜各地に収容されている捕虜(約一二人)の家族宛メッセージを録音して、その家族に送る番組である。NHKや台湾放送協会などから多数の録音班を各収容所に派遣して収集したものであるが、録音に行くと彼等は先を争って列を作った。[中略]そして放送する約一週間前から何月、何日、何曜、何時から何州、何町、何番地の某のメッセージを送るという風に予告放送を行なった。

このメッセージはポストマンがその家族達に届ける懐しい便りであって、人道的にみても立派なサービスである。しかしながらわれわれは彼等の家族達を喜ばせ勇気づけるのが目的ではない。このメッセージをサンドイッチの中の肉やチーズとして、そのまわりは反戦的な雰囲気をかもしパンの切れで取巻かなければならない。どうしても食べたい聞いたいものが含まれている以上、嫌な部分を取り除くわけにはゆかなかったと思う。

捕虜と家族の通信は万国赤十字社を通じて行なわれていたが、それには約三ヵ月くらい要していたので、家族からの返信をラジオを通じて行なうよう提案してみたが、米当局はこれを許さなかったようである。ただ家族からの返信を抽出的に点検することによってポストマンの便りは十分に届いていることが確認された。すなわち「お前の声を久しぶりに聞いた」「お前の放送があることを友人から電話や電報で知らせてくれた」というような手紙が多数発見された。」

【0014】

一二

3. 俘虜ノ個人的問題ニ関スル家族知己ヘノ質問（返信要求）
例ヘバ妹ハ誰ト結婚セシヤ
自動車ハ売却セシヤ等
 4. 日本ノ俘虜取扱公正（敵ノ対日敵愾心ノ抑制）
- 四. 放送従事俘虜ノ取締
憲兵隊ト連絡シ監視者ヲ附シ遺憾ナキヲ期シアリ
- 五. 其 他
1. 俘虜放送ハ勉メテ肉声（録音）ニ依ル如クシアリ
 2. 適時俘虜収容所ニ特定ノ人物ヲ出入セシメテ宣伝資料ヲ収集中
 3. 印度人俘虜ハ昭南、「バンドン」蘭貢、西貢、東京（目下一般印度人）¹¹ニテ利用中
 4. 目下俘虜中ノ適任者ヲ選定シテ之ヲ宣伝業務上更ニ有効多量ニ利用スル如ク準備中¹²

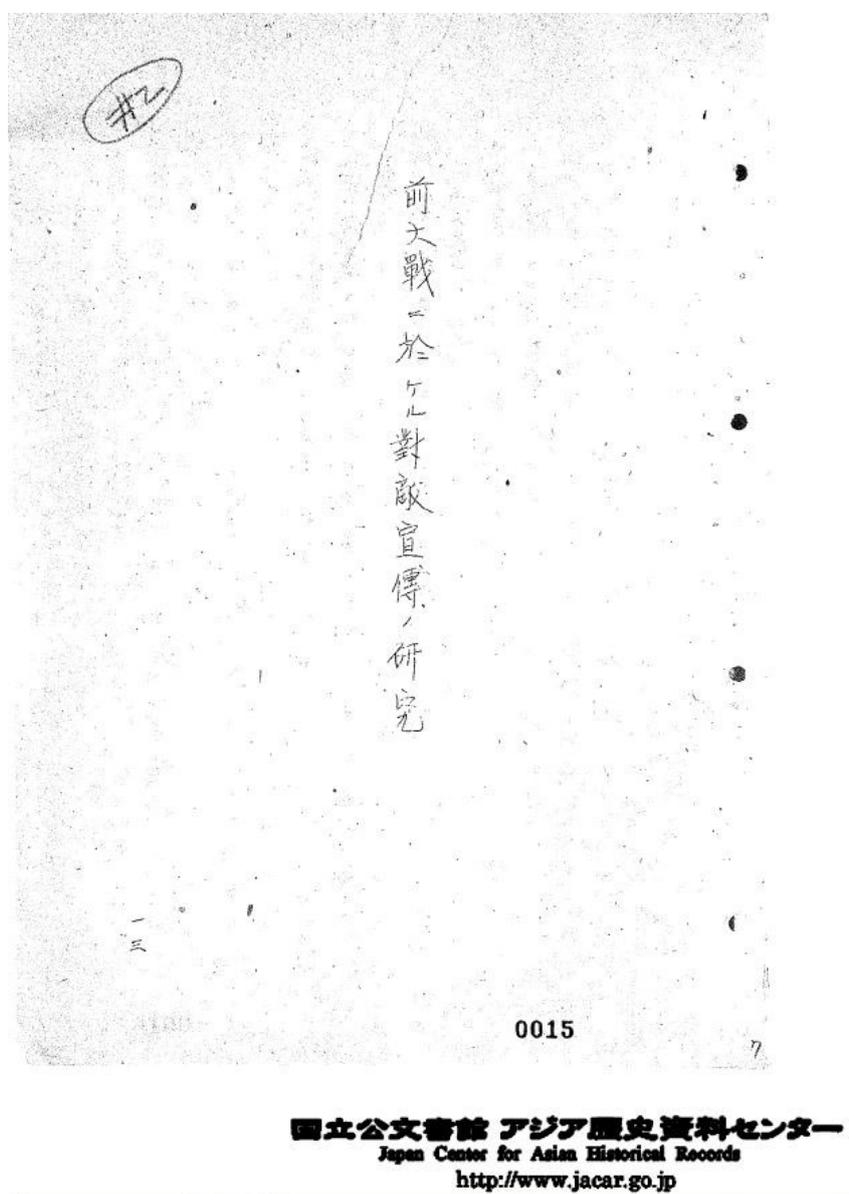
¹¹ 一例: All Indians, Arise To Crash British! Build India For Asia, India For Indians! :Rash Behari Bose Radiocasts From Tokyo. The Osaka Mainichi & TokyoNichi Nichi. 1942-3-15.

¹² 1943年12月2日に放送が開始された「日の丸アワー」を指すと思われる。〔前掲『日の丸アワー』〕

【0015】

前大戦ニ於ケル対敵宣伝ノ研究

一三



前大戦ニ於ケル対敵宣伝ノ研究

- 一. 本書ハ「ジョージ・ダブリュー・ブランツ」博士著「千九百十八年ニ於ケル
連合軍ノ宣伝ト独逸帝国ノ崩壊」(千九百三十八年「スタンフォード
大学出版」)ヲ笈光顕¹³氏ノ抄訳セルモノナリ
- 二. 前大戦ニ於ケル戦時宣伝事業ハ中立国殊ニ米国ノ同情ヲ獲得シ
テ自国側ニ参戦セシメントスル英国ノ努力ヲ中心トセルモノニシテ其
活動ノ中心機関タリシ「ウエリントン・ハウス」ハ米国ノ参戦ト同時ニ解
消セラレタルガ其ノ後ノ英国ノ戦時宣伝ハ対敵宣伝即チ独逸及
ビ其ノ同盟国ニ対シテ傾注セラレ独逸崩壊ノ重要ナル一因ヲナセ
ルモノニシテソノ中心ハ有名ナ「クリュー・ハウス」ト呼バレタル「ノースクリ
フ」卿主宰ノ一機関ナリ
- 三. 本書ハ英国ノミナラズ連合軍ノ対敵宣伝事業ヲ研究セル米国ノ
一歴史家ニシテ社会学者ノ十年ニ亘ル研究ノ成果ニシテ「スタン
フォード」ノ「フーバー・ウオワ・ライブラリー」ノ監修セル貴重ナル文献ナ
ルガ殊ニ「クリュー・ハウス」ノ活動ヲ詳述シ居レリ

¹³ かけいみつあき (1886-1969) . ["笈光顕". Webcast. <https://tinyurl.com/wuud2x3>,
(accessed 2020-1-12)]

【0017】

目次

- 一. 「クリュー・ハウス」ノ組織
- 二. 宣伝ノ計画
- 三. 宣伝ノ方法及戦略
- 四. 宣伝ノ組織的实施
- 五. 宣伝結果ノ測定

十五

一. 「クリュー・ハウス」ノ組織

1. 「ウエリントン・ハウス」ヨリ外務省管下ノ情報部（「デパートメント
オブ・インフォメーション）ニ発展シ更ニ戦時内閣直属ノ宣伝
省ニ昇格セル経緯ハ特ニ説明ヲ要スベキ事無シト雖モ情報組
織ノ時日ニ関シ或ハ千九百十六年十二月ナリト言ヒ或ハ十七年一月
ナリト言ヒ歴史家ノ意見一致セザルガ如キモ一方英国政府ガ対外
宣伝機関ヲ設置スルニ際シ極度ニ機密性ヲ保持シタル事ト面目其
他ノ考慮ニ因ハレズ必要ニ応ジテ改組セルモノナル事ヲ示スト共ニ
他方著者モ言ヘル如ク極メテ有効ナリシ英国ノ対外宣伝事業ガ
実ハ決シテ組織的ニ確信ヲ以テ開始セラレタルモノニアラザル事ヲ
語ルモノナリ
2. 「クリュー・ハウス」ハソノ官制ヨリスレバ情報省ノ一部局ナルガ其ノ名
称ハ「ウエリントン・ハウス」ノ場合ト同様ニ其ノ庁舎ニ使用セル建造
物ノ名称ニシテ「クリュー」侯爵ノ「ロンドン」本邸ヲ戦争遂行目的ノ為
無償ニテ提供セラレタルモノナリ
而シテ組織ヘ英国新聞王「ノースクリフ」卿ヲ首班トシテ其ノ下

【0019】

ニ宣伝資料製作部ト配布部トヲ置キ前者ヲ更ニ独逸^{オースト}傭匈
^{リア}国「ブルガリア」ノ三部門ニ分チ各々其等ノ国ノ国情.国民ノ心理等ヲ
熟知セル「ウイカム.ステイード」「アールダブリュセトン.ワトソン」「エツチ.
ジー.ウエルズ」ヲ主任トシテ活動セシメタリ
但シドイツ部主任タリシ「エツチ.ジー.ウエルズ」ハ活動開始以前ニ「ノー
スクリフ」卿ト政策ニ関スル意見ヲ異ニシ辞任「ハミルトン.フア
イフ」彼ニ代レリ
尚近東方面ハ情報省ノ近東部ニ宣伝ヲ一任セリ

二. 宣伝ノ計画

1. 「クリューハウス」ノ計画ハ中欧同盟国中最モ脆弱ト見ラルル傭匈
国ニ対シテ第一ニ宣伝ヲ開始シ連合国内ノ被征服諸民族ニ
民主主義的自由ヲ確保スル決意ヲ以テ戦ヒツツアル旨ヲ信ゼシメ
ント意図セリ

而シテ其ノ宣伝ニ際シテハ自治自主的發展等ノ言葉ハ同国内ニ
於テ好マシカラザル連想ヲ与ヘ宣伝ノ逆効果ヲ生ゼシムルヲ以テ
ソレニ代フルニ「被治者ノ承諾ニ依ル政治」ナル言葉ヲ広汎ニ使用ス

一七

ル等被宣伝国民ノ心理ニ細心注意ヲ払ヒタリ

2. スクシテ奥匈国ニ対スル宣伝ハ時ノ首相「ロイド・ジョージ」ノ「ノスクリフ」ニ書キ送リタルガ如ク非常ノ成功ヲ収メタルガ対独宣伝ニアリテハ前者ノ如ク容易ニハアラザリシナリ

此ノ間「ノースクリフ」ノ気着キタル事ハ米国軍ガ西部戦線ニ到着シツツアル事実ナリ之コソ連合側ノ有スル大ナル強味ナルヲ以テ彼ハ「独逸ハ既ニ人的資源動員ノ最後ノ段階ニアルガ連合側ハ米国□□殆ド無尽蔵ニ近キ資源ノ泉ヨリ汲ミ始メタルニ過ギザル事ヲ宣伝セザルベカラズ」ト為シ之ヲ以テ主タル対独宣伝ノ主題トナセリ

3. 他方英国陸軍省諜報部ハ特ニ宣伝課ヲ設ケMI・7bノ

名称ノ下ニ文筆ニ経験アル軍人ヲ課員トシテ最初ハ独逸占領地ノ白仏人¹⁴ニ対スル宣伝ヲ実施シツツアリシガ千九百十六年ノ春ニ至リ対敵宣伝目的ノ「リーフレット」ヲ作製シ之ヲ配布セル所諜報ニ拠リテ調査セル結果良好ナルニ依リ大陸遠征軍総司令部□協議シ其ノ活動ヲ強化シ千九百十八年ニハ一ヶ月約百万の「リー

¹⁴ ベルギー人とフランス人か。

【0021】

フレット」ヲ作製スルニ至レリ

4. 然レドモ「クリューハウス」ノ活動開始ト共ニM・I・7bノ職能中作製ハ部門ヲ併合シ「クリューハウス」ハ「リーフレット」「パンフレット」新聞其ノ他ノ資料作製ニ全力ヲ傾注シ「エム・アイ・セブン・ビ」ハ其ノ配布ニ専ラ活動スルニ至レリ

斯クシテ「ノースクリフ」ノ宣伝機関ハ完成シ活発ナル活動ヲ開始セルガソレハ実ハ「ミニストリ・フオア・ザ・デストラクション・オブ・ジヤーマン・コンフィデンス」即チ「独逸ノ自信ヲ破壊スル省」トモ呼バルベキモノナリキ

三. 宣伝ノ方法及戦略

1. 前述ノ如ク英国ノ対敵宣伝資料配布ハ軍当局ノ担当スルトコロナリシガ適當ナル資料ヲ適當ナル心理的時機ニ前線ニ配布シ得ンガ為ニ資料ヲ優先的ト「ストツク」資料トノ二種類ニ分類セリ而シテ優先的資料ニ対シテハソノ起草・翻訳・印刷・輸送及ビ配布ニ関シ正確ナル時刻表ヲ作製シ最小限ノ時日ヲ以テ起草ヨリ配布マデ実施得ラルルヤウ努力セリ即チ最小限ノ

【0022】

二〇

記録ハ四十八時間ナリシト言フ斯クシテ一週三回十萬ヨリ降ラザル
優先的「リフレット」ガ「ロンドン」ヨリ西部戦線ニ送ラレタルナリ

2. 其等資料ハ米国軍隊ガ益々増強サレツツアルコト独逸潜水
艦戦術ノ失敗連合軍産業ノ大増産等ニ関スルモノニシテ要ス
ルニ独逸兵ヲシテ彼等ハ容易ナラヌ敵ト戦ヒツツアル事ヲ印象ヅ
クル事ヲ以テ目標トナセリ
之ト関連シテ塹壕新聞ノ出版ハ特ニ研究ニ価スル宣伝活動
ナリ 此ノ新聞ハ其ノ体裁ヲ独逸新聞ノソレニ真似テ例ヘバ
「カイザル」ノ肖像ヲ「タイトルページ」ニ掲グル等ノ注意ヲ払ヒ而シテ
内容ニハ興味アル物語記事ヲ豊富ニ掲載シ其ノ間一見無害ナ
ルガ如キ辞句中ニ独逸兵ガ自国ノ新聞其ノ他ノ報道ニ依リテハ
得ラレザル特種ヲ載セ又極メテ愛国的（独逸ノ立場ヨリ見テ）ナ
ル論文中ニ読者ヲ驚カセ又反省セシムルガ如キ一二節ヲ挿入セリ
此ノ新聞ハ毎週二一五万部ヲ独逸軍ノ前線ニ配布セリ
3. 其ノ他「クリュー・ハウス」ハ或ヒハ独逸ノ宗教的伝統ヲ利用シテ
独逸ノ敗戦ハ同国政府ノ罪惡ノ報イナル事ヲ指摘セル「リーフレット」

【0023】

ヲ作製シ又宣伝ヲ加味セル有力ナル説教ヲ印刷シ或ハ英米ノ著名ナル政治家ノ演説殊ニ宣伝ニ対シテハ百「パーセント」ノ威力ヲ有スル「ウイルソン」大統領ノ演説、独逸ノ著名ナル人士ノ著書ノ一部ヲ以テ資料ヲ作り、或ハ独逸ノ食糧状態ニ関スル報道ヲ得レバ直チニ英独食糧配給量及ビ価格ノ比較スル「リーフレット」ヲ作製スル等各種各方面ノ資料ヲ自由ニ又極メテ有効ニ利用セリ

4. 特別ノ試ミトシテハ或ル俘虜収容所ノ給与ヲ特ニ豊富ナラシメ其処ニ収容セル独逸俘虜ニ家郷ニ宛タル書信ヲ認メシメソレヲ複製セルモノヲ独逸戦線ニ配布セル事ナリ 此ハ相当ナル反響ヲ挙ゲタル由ナリ

四. 宣伝ノ組織的実施

1. 連合国ノ対敵宣伝資料ヲ研究スルニ宣伝ガ可成明確ナル五段階ヲ経テ組織的ニ実施セラレタルヲ發見ス 即チ (一) 啓発宣伝 (二) 絶望感ノ宣伝 (三) 希望ノ宣伝 (四) 分立抗争ノ為ノ宣伝 (五) 革命ノ宣伝ナリ
2. 第一啓発宣伝ノ段階ニ於テハ独逸ガソノ国民及ビ兵ニ対シテ秘シ

二一

居タル敗戦其ノ他都合悪シキ事実ヲ知ラシムル事ニ努メタリ
蓋シ戦時ニ於テハ如何ナル国家モ自国ニ関スル情勢ノ真相ヲ全部
知ラシムルモノニアラザルヲ以テ事実ヲ捏造スル必要ナク敵国ニ
都合悪シキ事実ヲ蒐集シテ之ヲ知ラシムルヲ以テ足レリトス例
ヘバ米国ノ宣伝「リーフレット」ノ挙ゲタル独軍損失ノ数字ガ極メテ
正確ナリシ為ソノ後ノ米国ノ宣伝資料ガ独逸側ニ信用サルルニ
至リシ事等学ブベキ事ナリトス

3. 「ノースクリフ」卿ガ米軍ノ来援而シテ同国ノ軍事的経済的ノ
持久力ガ量リ知ルベカラザルモノナル事ヲ宣伝ノ主題トシテ採用セ
ルコトハ曩^{さき}キニ述ベタルトコロナルガ啓発宣伝ノ段階ニ於テハコノ
主題ガ種々ナル形態ニ於テ盛ニ利用サレタル事ハ当然ナリ
然レドモ最モ重要ナル宣伝ハ戦争目的ノ闡明^{せんめい}ナリ 独逸ハ開
戦当初ハ防御的戦争ナル事ヲ高調セルガ「フランス」侵入以来
明確ナル戦争目的ノ表明ヲ□キタル¹⁵ノミナラズ国内ニ於テ此ノ問
題ヲ論ズルヲ禁ジタリシハ連合^{れんごう}国ニ取りテ最モ乗ズベキ機会ナ
リシナリ

15 「欠キタル」か.

【0025】

4. 此処ニ最モ効果的ナリシ宣伝資料ハ前述ノ英米政治家ノ演説ニテ殊ニ「ウイルソン」大統領ノ理想主義的主張ト雄弁トハ最モ有力ナル破城槌ナリシト言フ。戦時宣伝研究ノ第一人者「シカゴ」大学ノ「ラスウエル」教授ノ言ヘル如ク『武力戦ニ於ケル偉大ナル総司令官ハ「フオツシュ」将軍ナリシ如ク宣伝戦ニ於ケル偉大ナル総司令官ハ「ウイルソン」大統領』ナリシナリ
5. 宣伝戦ノ第二段階、独逸軍民ニ絶望感ヲ起コサシムル宣伝ノ段階ニ於テハ連合軍ノ努力セルハ戦争ガモタラス悲惨ナル運命ヲ強調スルニ存セリ即チ独逸兵士ノ運命ハ唯死アルノミ 死ノ暗黒コソガ彼等ヲ待ツモノナルコトヲ印象ヅケント試ミタリ
- 而シテ他方ニ於テハ斯ク彼等ガ死ノ運命ニ忍従シテ開戦以来三四百万ノ生命ヲ犠牲トセル（ト称スル）ニモ拘ラズ独逸国民ノ前途ニ横ハルモノハ光明ナキ苦難ノミ若シソノ犠牲ニヨリテ利益スルモノアリトセバソハ少数ノ特権階級ノミニシテ彼等ハ斯クシテ幸福ト遊樂ノ生活ヲ送り居レリト。 絵画・写真・

二三

【0026】

二四

文書等アラユル方法ニヨリ絶望感ヲ深刻ナラシメント謀レリ

6. スク深刻ナル絶望感ヲ与ヘ得タルトシテソレノミニテハ対敵
宣伝ノ効果ヲ達スル事遠シ即チ独逸国民ヲシテ絶望ノ深
淵、死ノ谷ヨリ救ハルル方法ヲ示唆セザルベカラズ 即チ之第三ノ宣
伝段階、希望ノ宣伝ナリコノ段階ニ於テ連合軍ノ宣伝機関
ノ試ミタルハ連合軍ニ降伏スル事ニヨリテ更生セヨトノ勧告ナリ
独逸兵ニ取りテハソレコソ唯一ノ方法ニシテソノ他ニ生クル途ナキ事
ヲ高調セリ コレニ関連シテ俘虜独兵ノ書信一捏造ノモノ少
ナカラズ一ガ盛ニ利用サレタリ
7. 此ノ書信ニハ如何ニ彼等ガ優遇サレツツアルカ、如何ニ豊富ナル給
与ヲ受ケツツアルカ詳細ニ記述セルモノニシテ「フランス」宣伝機関
ハコレニ関連シテ写真ヲ盛ニ利用シテ「フランス」ガ如何ニ俘虜ヲ待
遇スルカヲ宣伝シ独兵ヲシテ仏陣営ニ投降シ来ルベキ事ヲ勧告
セリ
8. 然レドモ最モ巧妙ナル投降勧告ト思ハルルモノハ米軍ノ用ヒタルモノ
ニシテソノ勧告「リーフレット」ニハ俘虜取扱ニ関スル軍ノ命令書

【0027】

ヲ印刷シ自国兵及ビ俘虜ニ対スル給与ノ表ヲ附録トナセリ
米軍宣伝機関ハ此ノ「リーフレット」ヲ百万以上モ作製シテ独軍陣
地ニ配布セルガソレニ続キテ独逸軍事郵便「ハガキ」ノ正確ナル模
造物ニ投降勧告ヲ印刷シ更ニ裏面ニ投降後直チニ家郷ニ音
信スル為メノ文句、米軍ノ捕虜トナリテ安全ナルコト、潤沢ナル給
与ヲ受ケツツアルコト等ヲ印刷シ記名スレバ直チニ郵送シ得ラル
ルヤウニ準備セリ

9. 此ノ段階ニ於テモ最高ノ宣伝価値ヲ發揮セルハ「ウイilson」大統
領ニシテ彼ノ十四ヶ条ノ提案コソハ独逸軍民ニ和平ノ希望ヲ与
へ戦意ヲ喪失セシムルニ最モ強力ナリシモノナリ。現ニ第百十九歩兵
師団命令第四千二百三十二号ヲ以テ『最近ノ和平宣言（「ウイ
ルソン」ノ提案）ハ軍ノ戦鬪的決心ヲ脆弱化スル多大ノ危険ヲ伴フ、
ソノ甚ダシク有害ナル結果ヲアラユル手段ヲ以テ無効ナラシムル事ハ
今ヤ各将校ノ第一ノ任務ナリ』ト言ヘリ
10. 次ギノ段階ハ分立抗争ヲ起サシムル為メノ宣伝ナルガ連合
国ノ宣伝機関殊ニ「フランス」ノソレハ第一ニ「アルサス・ローレン」ニ
対シテ働キカケタ

二五

ルガソノ他南部独逸ガ旧教デアリ、北独逸ガ新教ナル関係、「ババリア」ト「プロシヤ」ノ宗教的、政治的關係ヲ利用シテ誇大ニ宣伝シソノ目的ヲ達セシメントセリ。例ヘバ「ババリア」兵ノ死傷者ト各州ノソレトノ比率ヲ数字ニテ示シソレガ約五割ニ上ルニ対シ「プロシヤ」ノソレハ約一割ナル事實（眞実ハ反対ナルガ）ヲ以テ「ババリア」ガ常ニ最モ困難ナル方面ニ向ケラレツツアルコトヲ証拠立テントスルガ如シ

- 1 1. 此等ノ宣伝材料ヲ独逸国内ニ送り込ムタメニハ独逸人ノ著書ノ表装ヲ利用シ或ハ「ベルン」ノ「ババリア」公使館ノ封印及ビ封筒ヲ偽造シテ密輸セリ。在「ベルリン」「ババリア」公使館ノ報告ニ依レバ数千数万、数十万ノ秘密文書ガ独逸及ビ「スイス」国境守備兵ニ発見セラレタルガ「ウイルソン」ノ演説集ノ如キハ十一万部ニ上リタル由ナリ
- 1 2. 以上ノ諸宣伝段階ハ最後ノ段階即チ革命ノ宣伝ニ対スル準備工作トモ見ルベク従ツテソノ成功ハ直チニ革命ノ宣伝ヲ可能ナラシメタリ。此処ニ問題トナルハ何ニ対シテ革命ヲ起スカ、ソノ対象ヲ明確ナラシメザルベカラザルコトナリ。連合国宣伝機關ノ対象トセルハ「カイザリズム」、「ミリタリズム」ナリ

【0029】

- 1 3. 殊ニ「フランス」ノ宣伝ハ最初ヨリ独逸国民ニ革命ノ思想ヲ植付ケントシテ「カイザル」ニ対スル革命ガ決シテ祖国ニ対スル不忠ヲ意味セザルコトヲ強調シ「カイザル」及ビソノ一家ガ国民ヲ犠牲ニシテソノ野望ヲ達セントシツツアル事ヲ絵画等ニヨリ盛ニ宣伝セリ又独逸国民ノ過激分子ト呼応シテ革命ヲ起スベシトノ兵士ニ対スル呼ビカケ、独逸軍隊内ノ将校ト兵トノ反目ヲ中立国新聞ニ誇大ニ報道スルコト等ノ方法ヲ試ミタリ
事実千九百十八年八月頃ノ独逸ノ軍事的失敗ハ独軍ノ士氣ヲ甚シク低下セシメ指揮官ノ統率ヲ困難ナラシムルニ至レリ
- 1 4. ソノ他露西亜革命後、独、露、講和以後ハ露西亜ノ革命宣伝ハ極メテ猛烈ニ且有効ニ行ハレタリ即チ独逸ニ於ケル革命ノ達成ハ連合側ノ宣伝トノミ見ルベカラズ、ソレニ露西亜共産党ノ宣伝及ビ独逸国内ノ革命分子ノ活動等ノ要因ガ合流シテ始メテ成功セルモノト見ルベキナリトス

五. 宣伝結果ノ測定

1. 前大戦ニ於ケル連合軍ノ殊ニ英国ノ宣伝ガ極メテ巧妙ナリシ事ハ既ニ定評アルトコロニシテ其処ニハ屢々無ヨリ有ヲ生ズル所ノ事実ヲ創造セル宣伝方法モ採用サレタレド対敵宣伝ニアリテハ主トシテ独逸国内ノ食糧及ビ政治不安□□重要ナル事実ヲ百「パセント」ニ利用セルモノナリ
2. 其間ノ事情ハ千九百十七年七月三十一日独逸野戦軍参謀長ヨリノ回状ニヨリテモ明カナリソレハ「銃後国民ノ士気甚シク沈滞沮喪セルコトヲ嘆キ」ソノ原因ノ一半ハ「食糧及ビ石炭ノ供給難、財政上ノ苦惱、戦争ノ長期化、家人ノ戦死等ヨリ来ル事実上ノ苦難ニ存スレ共一半ハ此ノ苦難ヲ利用シアラユル手段ヲ尽シテアラユル種類ノ不平、不満、焦燥感ヲ起サシメント努力セル某々敵国ノ扇動ニ依ルモノナリ」ト言ヘリ
コレニ関シテ独逸ノ一雑誌ハ「大戦ノ最後ノ数ヶ月ニ於テハ連合軍ノ宣伝者ガ独逸国家ヲ完全ニ指導シ、独逸国民ハ自国ノ指導者ヨリモ「ウイルソン」大統領ヲヨリ多ク信頼シタル状態ニ

【0031】

アリタルト言ヘリ

3. スカル独逸国内ノ事情ハ曩キニ度々述ヘタル如ク連合軍宣
伝機関ノ巧ニ乗ジテ利用セル所ナルガソノ実情ヲ最モ注意深
ク觀察シ居タルハ米軍陸軍心理班ニシテ此ノ機関ノ作製セル
「独逸国民ノ士氣ニ関スル図表」ハ何物ヨリモ勝リテ如何ニ組織
的ニ連合軍ノ宣伝機関ガ敵国民ノ銃後生活ノ実状ヲ研究シ
ソレトノ密接ナル関連ニ於テ宣伝ヲ実施シ来リタルカヲ示スモ
ノナリ
4. ソノ図表作製ノ過程左ノ如シ
 - (一) 陸軍諜報機関員ガ俘虜獨兵（各地方、各階級、各社会層
ヲ含ム）ヲ訊問シ或ハ長時間ノ会話等ニ依リ得タルアラユル
道報¹⁶ニ基キ独逸国民ノ士氣ニ関スル報告ヲ毎日提出ス
 - (二) ソノ報告ヲ担任將校詳細ニ研究シ独逸国民士氣一般の傾
向ニ関スル週報ヲ作成ス
 - (三) コレト他ノ方法ニヨツテ得タル報道トヲ綜合シテ心理班図表ヲ
作製ス

二九

¹⁶ 「報道」の誤記か。

【0032】

三〇

ソノ図表ハ原著ニハ現図ヨリ複写セルモノヲ掲ゲタルガ独逸国民ノ士気、独軍ノ戦線ノ変化同国政治総合ノ度合、食糧状態「オーストリア」「ハンガリー」ノ国内状態及ビ独逸潜水艦撃沈ノ頓数ヲ「パーセント」ニ測定シテ戦争期間中ノ消長ヲ一枚ノ図表ニ各々ノ異リタル記号ニ依ル曲線ヲ以テ表示セルモノナリ

5. 右ハ何事モ数字若シクハ図表ヲ以テ表示セザレバ止マザル米国式研究法ノ現レナリトハ言ヘ斯克シテ組織的ニ敵状ヲ調査研究シ宣伝ノ結果ヲ測定シテ有効ナル宣伝ヲ試ミタル努力ハ注意ヲ要スルコトナリ現ニ大東亜戦争ニ於テモ米国ハ一方在米ノ日本人ノ学者、専^(ママ)問家ヲ一度収容セルヲ釈放シテ日本ニ関シ又日本語ニ関スル講義ヲ続行セシムルト共ニ他方本書記載ノ如キ方法手段ニ依リテ我が国民ノ士気傾向ヲ調査研究シツツアルモノノ如シ
6. スクシテ測定セラレタル結果ハ大体ニ於テ正当ニ近カリシ事ハ独逸側ノ対策ヲ命ジタル軍命令ソノ他ノ文書ニヨリ判定シ得ベク原書ニハ多クノ斯ル文書ヲ引用シ居レリ一二興味深ク又示唆ニ富ム引用ヲ略記スレバ (一) 千九百十八年三月二十日

【0033】

「ルーデンドルフ」将軍が「クリューハウス」ノ対独宣伝ノ活動ニ驚キ首相ニ対シ独逸ノ粗残ナル宣伝機関ヲ組織化シ有効ナラシムル必要ヲ論ジ『「ヘーフテン」中佐ノ宣伝省設置ノ提案ハ余ノ全面的ニ一致スルトコロナリ』ト述ベタルコト

- (二) 独軍士気崩壊ノ過程ヲ『戦争ノ第一年ニハ兵士ハ戦場ニ於ケル名誉ノ戦死ト叫ビタルガ第二年ニハ祖国ノ為メニ生命ヲ捧グト第三年ニハ我等ノ義務ヲ果スタメニ異国ニ於テ死スト第四年ニ於テ此ノ恐ロシキ戦争ニ対スル重ネテノ犠牲トシテ死ス』ト変リタリト記セル独逸側ノ記事アリ
7. 独逸崩壊ノ原因ガ如何ナル過程迄武力戦ニ又宣伝戦ニ帰スベキカハソノ比率ヲ数字ヲ以テ測定シ得ベキ性質ノモノニアラザレドモ千九百十八年十月三十一日附ノ「ロンドンタイムス」ガ「宣伝ノ効果ハ恐ラク戦争ヲ一年早ク終ラシメ数億「ポンド」ノ戦費ヲ節約シ少クトモ百万ノ兵士ノ生命ヲ救ツタ」ト述ベタルハ決シテ過言ナラザルベシ
8. 更ニ又ソノ成功ニ関シテ「ノースクリフ」卿自身ガ休戦ノ前日公開ノ席ニ於テ「若シモ我等ガ或ル程度迄戦争ノ終結ヲ早メ得

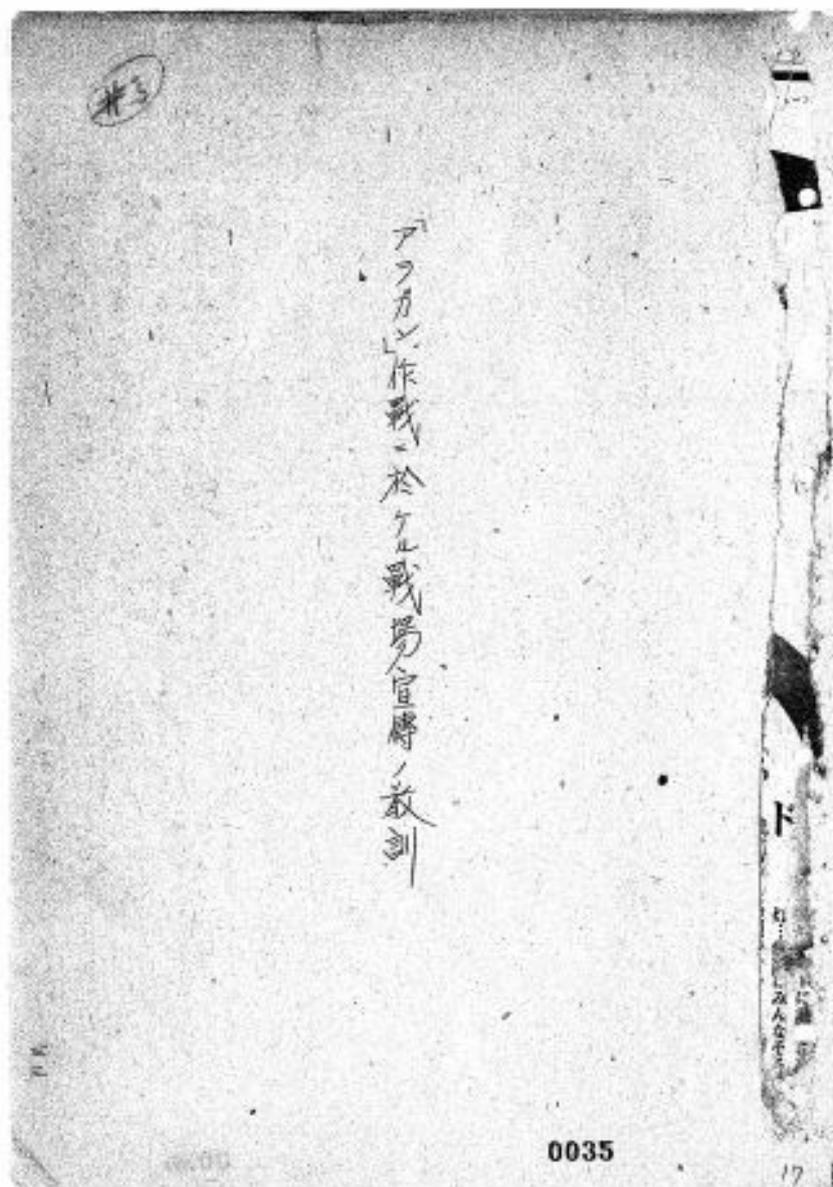
三一

【0034】

タリトスルナラバソレハ確ニ我等ノ宣伝機関ガ専門家ト熱心家
トノ集団デアリ活動ノ当初ヨリ完全ナル一致^(ママ)極カヨリ生ズル目的
ヘノ集中化ヲ実行シタ結果デアル 私ハ此ノ大戦ノ初期ニ於
テモツト早くヨリ斯クノ如キ対敵宣伝ヲ開始シタナラバヨカツタ
ト思フ」ト語リタルハ玩味スベキ言葉ナリトス

【0035】

「アラカン」作戦ニ於ケル戦場宣伝ノ教訓



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp>

【0036】

「註」

本資料ハ今次「アラカン」作戦¹⁷ニ於テ森部隊¹⁸ノ実施セル戦
場宣伝ノ教訓ノ若干ヲ取り纏メタルモノナリ

¹⁷ 次の「第一次アラカン作戦」のことか。

「第一次アキャブ作戦（三十一号作戦、第一次アラカン作戦）

詳細は「第一次アキャブ作戦」を参照

1942年から1943年の乾季、ビルマ戦線の連合軍にはまだ本格的反攻に移る余力はなかったが、2つの限定的な作戦を実施した。第1はビルマ南西部のアキャブ(現在のシットウエ)の奪回を目指した作戦、第2は「チンディット」部隊（いわゆるウィングート旅団）によるビルマ北部への進入作戦である。

アキャブはベンガル湾に面し、インドとの国境に近い最前線の要地だった。守備隊は宮脇支隊（歩兵第213連隊の一部）だった。1942年12月、イギリス軍第14インド師団[注2]. [省略]が国境を越えて南下した。宮脇支隊はアキャブ前面まで後退し堅固な陣地を構築した。イギリス軍がこれを攻めあぐねている間に、日本軍第55師団が援軍に向かった。1943年3月末、第55師団主力はイギリス軍が横断不可能と判断したアラカン山脈を踏破して第14インド師団の側面を急襲した。奇襲は完全に成功し、第14インド師団は包囲されて大損害を受け、作戦開始地点まで後退した。こうして連合軍の反攻の初動は日本軍の快勝に終わった。」。[“ビルマの戦い：第一次アキャブ作戦（三十一号作戦、第一次アラカン作戦）”。Wikipedia. <https://tinyurl.com/smsp24y>, (参照 2020-1-13)]

¹⁸ 次の「緬甸方面軍」のことか。

「緬甸方面軍（ビルマほうめんぐん）は、大日本帝国陸軍の方面軍の一つ。

南方軍隷下でその名の通りビルマ方面の作戦・防衛を担当した。ビルマ・モールメンで終戦を迎えた。[中略] 通称号：森

編成時期：1943年（昭和18年）3月27日

[中略] 司令官 河辺正三 中将：1943年3月18日 - 」。[“緬甸方面軍：緬甸方面軍概要”。Wikipedia. <https://tinyurl.com/vd4p2v4>, (参照 2020-1-13).]

【0037】

一. 敵側ノ対日国軍宣伝ニ対スル觀察

1. 対印度兵

- イ. 今次^(ママ) 対 戦ニ対スル日本ノ戦争目的非難
- ロ. 我ガ大東亜共栄圏ノ意義ヲ曲用シ日本ノ利益ノ為ノミナルヲ強調
- ハ. 我ガ国体ノ誹謗曲解
- ニ. 連合軍側ノ枢軸側ニ対シ軍備及軍需生産能力ノ絶対優勢
- ホ. 連合軍側ニ都合ヨキ「ニュース」特ニ北阿、独蘇「ソロモン」戦況
- ヘ. 日本軍ノ捕虜虐待
- ト. 近東及北阿出兵印度兵ノ勇武賞揚
- チ. 印度軍ノ第一次世界大戦ニ於ケル光輝アル歴史回顧
- リ. 日本軍ノ残虐性. 特ニ印度兵及日本占領地印度婦女子ノ殺戮
強姦、財産ノ強奪

右ノ事項ヲ反覆¹⁹強調セル旬刊機関紙（「フアウジ アクバール」
Fauji Akbar — 「軍事報」）ヲ配布シアリ（紙質粗悪ニシテ用
語ハ「英語」「ヒンドスタニ」「ウルドウ」「ベンガリ」語ヲ使用.
紋^{じょじょう}上ノ他本作戦間「デリ」放送ハ印度兵ノ個人的武勇ノ賞揚ニ

三五

¹⁹ 「反復」の誤記か.

努メ又米誌ハ「アラカン」戦線ノ印度兵ノ活躍振りヲ宣伝スル等其
ノ^(ママ)志氣ノ昂揚ニ腐心シツツアリ

2. 対英人兵

月刊雑誌「ヴェクトリ」ニ概ネ前項ノ如キ記事ヲ掲載ス（紙質
良好ナル「グラビヤ」版ニシテ立派ナル宣伝雑誌）

此ノ他拾得セル書類ニ依レバ英兵ノ印度ニ対スル智識、特ニ印度
兵ニ接スル態度ヲ懇切ニ教ヘ英印兵摩擦相剋ノ絶滅ニ
留意シアリタリ

3. 対「アラカン」人

飛行機ニ依リ「日本軍ニ協カスベカラズ」「後方ヲ攪乱セヨ」或ハ彼等
世界全般ノ戦勢ヲ知ラシムル伝単及新聞等ヲ^{るじ}屢次ニ亘リ
散布セルモ効果ナシ

4. 対印度回教徒

V部隊²⁰ノ工作浸透シ一般ニ日本軍ニ対スル非協力極少部隊ニ
対スル反抗ト共ニ日本軍占領地内攪乱ノ為対「アラカン」人相剋
ノ激成²¹ニ努メタリ

²⁰ 「第五列」の意か。

「【第五列】（前略）敵方に内応する者。内通者。第五部隊。」、『広辞苑』

²¹ 「【激成】（主として明治期に用いた語）はげしいものにする。一層はげしくすること。[以下略]」。[同上]

【0039】

例一我ガ方ノ軍票ヲ受取ラズ糧秣ノ供出ヲ拒絶。二、三人ノ日本兵ヲ包围シ「ダ」（土民刀）ヲ投ゲツケシ等（「アレサンヨ」部落附近）ノ如シ

二. 敵側ノ日本軍ニ対スル宣伝ノ観察

1. 拡声器放送

「マユ」半島「ドンベク」「ラチドン」正面ニテ実施。音量豊富ニシテ機能良好ナリ。我ガ兵ハ「デマ」放送、日本音楽ニ興味ヲ有セルモ一笑ニ附セリ。電源ハ「バッテリー」ノ如キモ詳細不明

例一三月一七、八日ノ放送内容

「ラチドン」前面敵砲兵観測所タル「バゴダ」高地ニ拡声器ヲ設置シ放送ス

「日本ノ兵隊サン私ハ日本ニ三年居りました 私ハ戦争シタクナイ然シヤラナケレバナラナイ、ヤル以上ハ死ヌ迄ヤル御免下サイ」ト朝鮮人程度ノ日本語ニシテ明瞭ナリ

之ニ継ギ印度音楽（レコード）ヲ放送セリ

又大晦日ニハ「レコード」ニ依ル東京音頭ヲ放送シ「御目出

三七

度ウ」ト述ベシ後砲弾ノ集中射撃ヲ行ヒ射撃終了後

「今ノハ如何デスカー」ト放送我將兵ヲ苦笑セシメタリ

2. 飛行機ニ依ル伝単撒布

一般ニ文章文体共拙劣ニシテ矛盾多キモ我弱点ヲ衝キ

シ伝単モアリ概シテ「ニュース」ト絶縁セル我ガ第一線部隊ニ

対シ遠隔地（ソロモン、ニューギニヤ、北阿等）ノ戦況ヲ枢軸側ノ

惨敗トシテ宣伝シ我ガ心理的効果ヲ狙フ手段ヲシテ觀察シ

得

例一我ガ航空作戦開始前敵機跳梁セル際「一体日本機ハドウ

シタア」トノ簡単ナル伝単ハ兵ヲシテ一応肯カシム

3. 地上ニ於ケル伝単配布ノ方法

前項ト同様内容ノモノヲ「マユ山脈」中日本軍ノ宿営又ハ

進出ヲ予想セラル、地点又ハ敵退却ニ際シ予メ通過要

地ニ撒布シ置ク等ノ方法ヲ用ヒアリ

三. 我ガ宣伝ノ効果觀察

1. 我ガ放送ノ効果ニ就テ

【0041】

捕虜印度人将校軍医大尉「グラムサルワール」大尉（「マドラス」出身）ノ言ニ依レバ我ガ放送ハ相当一般ニ秘密ニ聴取シアリテ我ガ放送ニ対シ多大ノ関心ヲ有スル事确实ナリ特ニ東京放送ハ効果的ニシテ西貢放送之ニ次ギ蘭貢放送（当時五〇〇ワツト）ニ関シテハ存在ヲ知リアル程度ニシテ「マドラス」ニ置^(ママ)ケル聴取ハ不可能ナリ

現蘭貢放送ハ「十キロワツト」ニ強化サレシニ由リ其効果期待スベキモノアリト思料セラル

「ブチドン」ノ第三十六旅団司令部遺棄品中優秀ナル短波受信機ヲ発見セリ

右ハ印度兵ニ対シ聴取ヲ許可シアリタルトハ考ヘ得ザルモ英人兵ノ聴取シアリシハ疑ヒヲ容レズ

将来敵将兵ヲ目的トスル戦場向放送「プログラム」ヲ作り放送スルモ価値アルベシ

【0042】

2. 航空部隊ニ依ル伝単撒布

月	日	撒布担任部隊	部数	地区
三	一四	独立飛行第七十一中隊	一二万	「□シベーク」「□イン」「□チドン」
三	一五	同 右	六万	「ブチドン」「ラチドン」
三	一六	独立飛行第九十一中隊	三万	「アルサショー」「モンドー」
四	一一	同 右	八千	「ブチドン」「モンドー」
四	一二	同 右	一千五百	「ブチドン」「モンドー」
五	一〇	独立飛行第七十一中隊	四千	「ボリバザ」方面
五	一三	同 右	六万	「ボリバザ」方面

航空機ニ依ル宣伝成果ハ極メテ著大ニシテ投降誘起戦意
 破摧ニ多大ノ効果ヲ挙ゲアリテ印度兵俘虜ノ殆ドハ我ガ
 伝単ヲ大切ニ胸中ニ隠匿所持シアリ
 投降者ノ言ニ依レバ印度兵ハ我ガ撒布セル伝単ヲ争ツテ
 拾得シ投降時上官ノ眼ニ触レザル様折畳ミ「ポケット」ニ所持シ投降時ノ

【0043】

準備ト為シアリ又、伝単ヲ入手シ得ザル兵ハ大ナル不安ノ念ニ
驅ラレアリ

我ガ空中ヨリスル伝単撒布ハ敵英印軍ノ内部的欠陥ヲ

助長シアリテ特ニ集団投降内部反乱等ノ事例ヲ見

タルハ注目スベキ現象ナリ

右表ノ外飛行師団ニ於テ「カルカツタ」爆撃ノ際伝単八万

枚ヲ撒布シアルモ其成果ニ関シテハ不明ナリ

3. 地上ヨリ実施セシ宣伝

イ. 「マユ」河ノ干満ノ差ヲ利用シ壘、竹ニ縛束セル伝単ヲ敵
地区ニ流入ス

ロ. 当初「ブヂドン」「モンドウ」ノ線ヨリ後退スルニ際シ予メ友軍
ノ撤退予定地区ニ、伝単ヲ撒布セリ

ハ. 敵地区住民及我ガ占領地住民ヲ利用ス

右各方法ハ効果ノ測定困難ナルモ住民ヲ利用セシ宣伝効果大

ナルモノアリ住民中ニハ秘カニ印度兵ニ近接交付セルモノ

モアリテ其ノ伝単ヲ持参投降セシ俘虜相当数ニ達セリ

【0044】

□□□□□対□□□□□□□□□□□ノ□□週^(ママ)間新聞
□□□□□□ド□□□□□□作製シ之ヲ伝単ト共ニ撒布セル
結果日本軍ノ強□及世界戦局ヲ認識シ戦意破摧ニ大
ナル寄与ヲナセリ

四. 其ノ他

1. 対「□□□□」在住諸民族宣伝

彼等ハ日本ノ真意、実力ニ対スル智識ハ皆無ニ近キヲ以テ適
切ナル報道ヲ行フノ要アリ之ガ為

□□□ニ対シテハ週^(ママ)間「アボシト □□ンドスターニ」紙（「□ーマン」
「ウルドウ」語）□従来通発刊

印度回教徒

日本ノ真□□我ニ協カスルニ於テハ宗教ノ保護、利益ノ確
保ヲ知ラシメル伝単効果アリ

「ベンガリー」語ノ週刊程度ノ新聞ヲ発刊スル要アリ

「アラカン」人

現ニ発刊シツツアル『ビルマ語新聞』ヲ配布ス

四二